

## 珍重された怪しい渓魚

★京都府 京北 美山川  
☆佐々里

記憶を辿るとこの釣りを始めた頃は辛かった……

フライの道具を買ったは良いが、何をどうすれば良いかわからない。何処に行けば良いかもわからない。

ノクターボ5500のジミニーで毎週高速を喘ぎながら走って福井まで行く訳にも行かず、釣具屋の兄ちゃんから薦められた湖北の川も同じ様なもので、近場で下道を走って行ける釣り場は無いかと釣り場マップを食い入る眼差しで見ている。

「あったあ……」と「上桂川」のあまごマークを発見し百聞は一見に如かずと休みを待っていそいそと出かけた。大堰川が上桂川となり、あまごマークが印された大堰原に出た。

「ううん……もう少し上に行ってみよう」と上流を目指す。

するとこんでもない峠道になり、Uターンを意識しながら走るものの、登りが降りへと傾き、何時しか、か細い流れが道沿いに寄りそいだした。

「何処やら……」と「毛鉤」を見とく「佐々里」

と言う所らしい……その川を地図上でドンドン下流に辿ると「美山川」となっており、あちこちにあまごマークが印してある。

当然、ここ佐々里にもすっかりマークが付いていた。

「こっちの方がエエンとちゃうか?」……他に何も情報がない当時の私としては、近場と言えども峠を越える回数が多い程、釣れる様な気がしていた。

やがて民家が見え出すともう一本、少し大き目の流れが合流している。こちらの流れを上がって見ると「佐々里スキー場」と書いてある看板があった(記憶が曖昧で有った様な気がする)。

今となってはこの流れの何処で竿を出したか思い出せないが、入深してもネコヤナギと葦で竿が振れず、流れも小さく、一体何を何処でどうすれば魚が釣れるのかサッパリ見当が付かなかった事だけは覚えている。

止む無く、橋の上から垂らす事にした。

おそろく梅雨の晴れ間か梅雨があけたかの時期だったと記憶するが、暑さと共に自分が一体何をしているのか?サッパリ自分でもわからなくなっていた。



「兄ちゃん何やその飛び道具?釣りか?」いきなり声を掛けられた。

「エエ……」

「ひっかけか?」

「いえ……毛鉤です。」



「テンカラかあ〜ちやうやろっ!」

「いやフラ・(イ)と言ってこのオッサンにわかるハズもなく・・・西洋流の毛鉤釣りです。」

「だいそやのあ〜とこで見てみい・・・めずらし・・・イワナが釣れたわ!・・・」

と言って、スーパーのビニール袋を覗け!とばかりに差し出した。

中には一匹、とっくに息絶えてひからびて黒くなった13cm程の魚が入っている。

私としては、イワナは九頭竜ダムへ行った帰りにたまたま入った名も知らぬ川(今から思えば打波か石徹白)でやけくそで引くルアーに向かう合せてヒットしたイワナしか知らず、未だ一回しか見たことがない。

しかし、タダその時は純粋に(エエなあ〜)俺にも釣れるやろか?と思った。当然、渓魚の見分けが出来る程、まだまだ見識もおぼつかず・・・言われたままを信じるしかなかった。

「よかったですね・・・」とお愛想で固めた言葉を返すと・・・

「ここは去年まであまこの特別区でな・・・天然もののヤマメもあるが、イワナはめずらし!ホンマびっくりしたわ・・・」

「そうですか?」と、この時点では事のしだいが掌握できていない。

全く釣れない私としては、あまこでもヤマメでも、更にそれがイワナであっても、渓魚が釣れたのなら羨ましい限りだった。

今から思えば、このオッサン・・・その後、あちこちの川で幾多と出会う餌釣師の方々とは少し雰囲気違った。

普通のゴム長を履いてリュックサックを背負い、手には例のビニール袋だけ・・・

更にその後わかることだが、この佐々里でイワナが釣れる等、ガイドブックやその他の本を見ても、その後に出会う釣り人に聞いても、極

めて怪しい話だと言っ事がわかりました。

やがて、魚を見分ける見識を持ち出すと・・・やはりどうも怪しい。

それに、ある程度釣れる腕がでキ上がってくると、益々不可思議極まりない。

しかし、絶対違う・・・とは言い切れない。佐々里でイワナはあり得ない!・・・とすれば、あの時は?・・・きっと(アブラハヤを見せられたんだらう)・・・と思う事にした。あのオッサンもあのイデタチからして、泥バエをイワナと間違えて珍重してたに違いない。

しかし、美山川も濁沓林にはイワナが居る・・・と言うことは可能性はある・・・と言う様な意見も頂いた事もある・・・どうも未だにじっくり来ない。

・・・んが、何はともあれ、このオッサンがイワナを見せてくれた御陰で、「ここには渓魚が居る」と確信し、この川へ想いを馳せるきっかけになったのは事実だ。

結果的にはその後この「佐々里」でヤマメを上て、ここへの想いは益々強くなって行っった。

本当にイワナを見せられたにせよ、泥バエで騙されたにせよ・・・この出会いがなければ、今頃佐々里は記憶の彼方に消えていたに違いな

い。

■美山川・佐々里のご案内

最初は全く釣れなかった。これは場所の問題ではなく、私の腕の問題である。

翌年、岸田川と知見谷の雑魚で訓練した成果もあり、漸くネコヤナギの流れからヤマメを上げた。もう、記憶も薄らぐ昔の事となってしまった。

特にハリマ屋さんの裏は結構竿抜けになっていて、何度も良い思いをさせてもらった経験がある。全体的にはネコヤナギが魚を守った小さな流れが好きだった。

しかし、このネコヤナギが激減している。何処も彼処も昔の面影は無くなってしまった。



左はハリマ屋さんの裏でほぼ同じところから撮った写真だ・・・これを見てわかる様に、

約十年前、五年前、現在とどんなネコヤナギが減っているのかわかる。どうやら近年増え続けた鹿が影響しているらしく、これには結構不安を感じる。

元々底石が少なくネコヤナギの下を隠れ家としていた渓魚が何処に行くのか？更にネコヤナギが無くなると、ドンドン川は浅くなり、夏の水温上昇は否めない。

ところが、この様な不安を打ち消す様に、この佐々里が2003年からC&R区間となり、とうとう今年からルアー&フライ特別区になった。もはや「兄ちゃん何やその飛び道具？釣り

か？」と言われた釣り方が「他の釣り」を抑えて優先される等、未だに全く信じられない。

おそろく、ここに至るまで関係者の方々には幾多の苦勞があった事を思うと深く感謝せねばなるまい。

昨年は余り調子が出なかった様だが、私自身この佐々里には深い想い入れがあり、今年はずよくちよく覗いて様子を見ており、今のところそれなりに順調の様だ。

一昨年の夏・・・C&Rの効果を見に来てヤマメを上げた。

その瞬間を見ていた子連れのキャンパーが・・・「あまごですか？」

「いや、ヤマメですねえ・・・今時分釣れるのもC&Rの御蔭ですわ・・・昔は夏は雑魚ばかりでしたけど・・・」

「そうですかあ・・・ここはイワナは釣れますわ・・・」

「いやあ・・・ここはおりまへん・・・演習林には居るようやけど・・・」と自然に口から突いて出た。

やっぱり、素直に・・・イワナが釣れるなど・・・信じてない様だ。

2006年 8月